

コリント教会では、パウロ派、アポロ派、ケファ派、キリスト派という四つの分派が生まれ、お互いが自分の正しさを主張して対立していました。パウロは、10 節に記されているように、教会員が語る事、言葉に置いて一つになり、教会が破れ、分裂に陥ることなく、言葉と心と思いにおいて一つとなるように、と勧めているのです。各派が対立する状況がいかにかパウロが宣べ伝える福音から逸脱しているかを自覚させるために、パウロは三つの質問を發します。最初は、13 節「キリストは幾つにも分けられてしまったのですか。」と語ります。ここには「教会はキリストの体である」という理解があります。人の体は一体であって、部分に分けることができないものです。もし教会が分裂するならば、それはキリストを切り分けることになるというのです。次に、「パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。」と語ります。もちろん、そうではありません。パウロにつく、と言っている人がいるようだが、いったいパウロは、あなたがたのために十字架につけられたのか、あなたがたのために十字架につけられた方、イエス・キリストにこそ結びつくべきなのであって、そうでないパウロなどに結びついて何にもならない、というのです。パウロが見つけているイエス・キリストは、十字架につけられたキリストであって、それ以外ではないのです。さらに、パウロは「あなたがたはパウロの名によって洗礼を受けたのですか。」と問いかけます。コリントの人たちは主イエス・キリストの名の中へ洗礼を受けました、すなわち、主イエス・キリストに属する者となることを告白したのです。決して、パウロとかアポロとかケファに属する者になったのでなかったはずで、パウロは、一人の方であるキリストが幾つにも分けられてしまう、あなた方の間で起こっていることはそういうことだと語るのです。党派が生まれ争いが起るのは、みんながイエス・キリストにしっかり結びついていないからです。キリストに結びつくのではなく、パウロとかアポロとかケファという人間に結びつこうとするからです。あるいは自分と同じような考えを持った、気の合う者どうしで結び合おうとするからです。そこに、言葉と心と心の分裂、不一致が生まれるのです。キリストによる一致ではなく、人間の考えや好き嫌いの思いによって仲間と一つになろうとするところに、分裂、対立が生じるのです。それぞれに与えられている様々に違った賜物が生かされ、それぞれに違った奉仕が喜ばれ、信仰における強調点の違いはいろいろあっても、十字架にかかったイエス・キリストに仕えることにおいて一つである交わりが生まれるのです。